

地域医療・多職種協働部会の発足にあたって

平素、本学会の運営につきましては一方ならぬご協力を賜り衷心より御礼申し上げます。

先般、地域医療・多職種協働部会メンバーを募集したところ、7名の応募（自薦・他薦）をいただきました。多くの皆様の関心の深さがうかがわれ、厚く御礼申し上げます。

去る7月7日に開催した第197回理事会において承認を受け、理事長直轄の部会(統括責任者：理事長)として、副統括責任者には神谷彰理事(北秋田市民病院院長)および星野明子評議員(大阪成蹊大学副学長／看護学部教授)にご就任いただき、医師、保健師、社会福祉士、管理栄養士からなるメンバー7名を加えて10名で発足しました。今後もメンバーは固定せずに随時受け付け、また有識者にもご意見をいただき進めてまいり所存です。

今後急速に進む少子高齢化は大きな問題であり、その対策には地域を基本単位とした行政・医療・介護・福祉関係者の密接な連携、すなわち多職種協働が必要です。当学会では設立当初より、様々な職種が学会発表を行い、学会誌に論文を投稿、研究プロジェクトに携わっており、職種の垣根を越えた知見が集まっています。本会は少子高齢社会への対応策を現場目線で追い求められる団体で、多様な職種の視点から地域医療・多職種協働に向けた提言が可能な唯一の学会です。これこそが本会の価値、社会における役割と考え、新たな特別研究プロジェクト事業として本部会を設置、当学会への発表・論文・研究成果から地域医療・多職種協働に関するものを取りまとめ、学会提言として内外へ発信してまいります。今後とも、特段のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

まずは、今秋に開催する第72回学術総会において、神谷学会長に特別講演およびシンポジウムにて地域医療・多職種協働に関するテーマを企画していただきました。特別講演では統括責任者(佐藤)が「日本農村医学会の新たな取り組みー地域医療・多職種協働ー」として方針を紹介いたします。また、日本農村医学会雑誌第72巻第6号(2024年3月号)には学術総会特集号を掲載しますので、学術総会へのご参加に加え、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

令和5年7月7日

一般社団法人日本農村医学会
理事長 佐藤賢治